

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平5-195

(43)公開日 平成5年(1993)1月8日

(51) Int.Cl.⁵
A 6 3 H 17/00
3/04

識別記号 庁内整理番号
C 7130-2C
A 7130-2C

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 1(全 3 頁)

(21)出願番号 実願平3-55611
(22)出願日 平成3年(1991)6月21日

(71)出願人 000132998
株式会社タカラ
東京都葛飾区青戸4丁目19番16号

(72)考案者 高谷 元基
東京都葛飾区青戸4丁目19番16号 株式会
社タカラ内

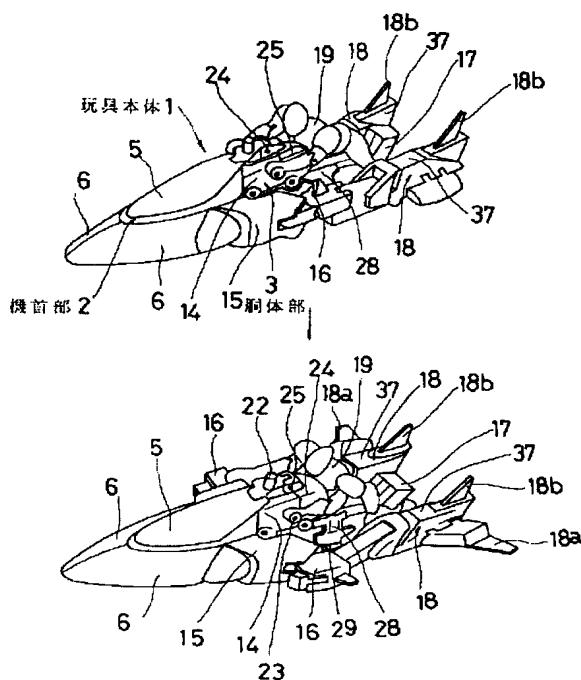
(74)代理人 弁理士 瀬川 幹夫

(54) 【考案の名称】 形態変化玩具

(57) 【要約】

【目的】遊びの範囲を拡大するとともに、面白みが倍加される。

【構成】 玩具本体1を構成する各部材を組みかえることによりバイクの形態からジェット機の形態に変化するように構成する。そして、玩具本体1はジェット機の形態時に機首部2と胴体部3とが分割可能であって且つ機首部2は鳥の形態に、胴体部3はロボットの形態と武器の形態との二つの形態に変化するように構成されている。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】 玩具本体を構成する各部材を組みかえることにより走行体の形態から飛行体の形態に変化可能な変形玩具であって、下記要件を備えることを特徴とする形態変化玩具。

(イ) 玩具本体は飛行体の形態において、機首部と胴体部とが分割可能に形成されていること

(ロ) 上記機首部を構成する分割部材を組みかえることにより動物の形態に変化すること

(ハ) 上記胴体部を構成する分割部材を組みかえることによりロボットと武器との二つの形態に変化すること

【図面の簡単な説明】

【図 1】 玩具本体が走行体の形態から飛行体の形態に変化する状態の説明図である。

【図 2】 玩具本体が飛行体の形態における機首部と胴体部との分割状態を示す斜視図である。

【図 3】 機首部が動物の形態に変化した状態の説明図である。

【図 4】 胴体部を分割した状態の説明図である。 *

* 【図 5】 胴体部を構成する分割部材によってロボットの上半部を形成した状態の斜視図である。

【図 6】 胴体部を構成する分割部材によって形成されたロボットの脚部を人形に挿入した状態の斜視図である。

【図 7】 胴体部を構成する分割部材によって形成されたロボットの完成図である。

【図 8】 シート部材が武器の形態に変化した状態の斜視図である。

【図 9】 武器の形態に変化させたシート部材と動物の形態に変化させた機首部とを合体させて形成された別の武器の斜視図である。

【図 10】 胴体部を構成する分割部材によって形成されたロボットに動物の形態に変化させた機首部を合体させて形成した別の大きいロボットの斜視図である。

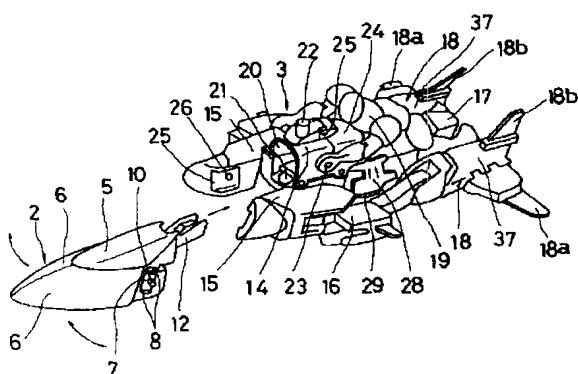
【符号の説明】

1 玩具本体

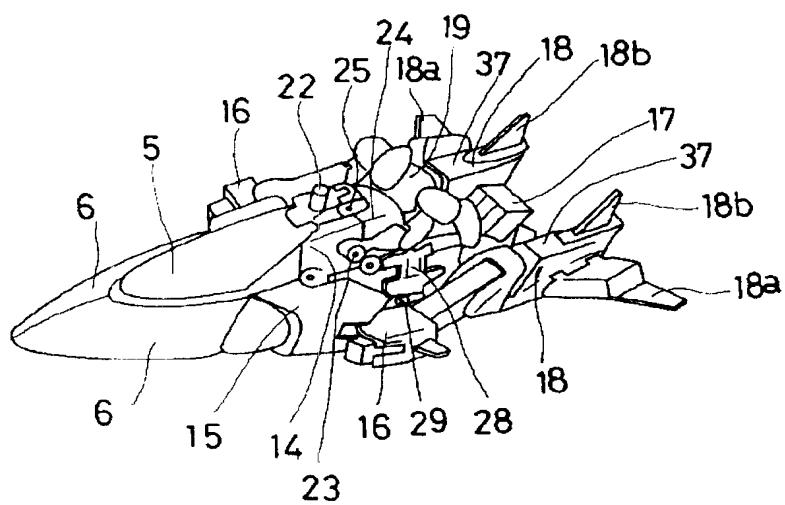
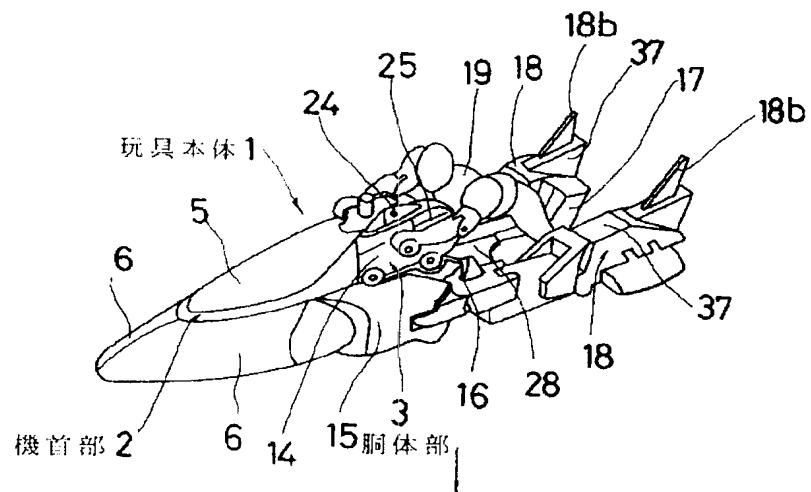
2 機首部

3 胴体部

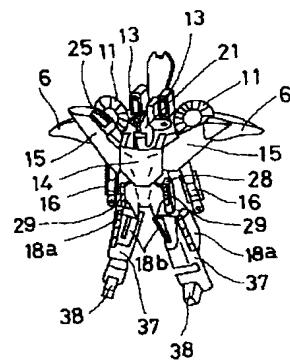
【図 2】



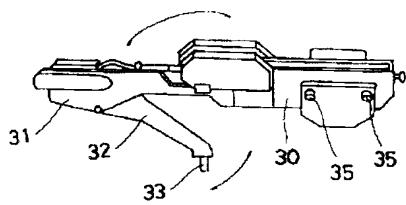
【図1】



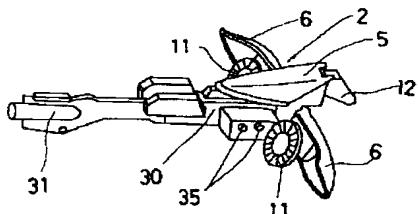
【図10】



【図8】



【図9】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案は玩具本体が飛行体の形態において機首部と胴体部とが分割可能で且つ該機首部は動物の形態に、胴体部はロボットと武器との二つの形態に変化する形態変化玩具に関する。

【0002】**【従来技術とその問題点】**

従来、この種の形態変化玩具は玩具本体を構成する各部材を組みかえることにより一つの形態から他の一つの形態に変化させるものであった。

【0003】

しかしながら、従来の形態変化玩具は単純な変形を楽しむだけのものであるから、遊びの範囲も限られるとともに、面白みに欠けるなどの難点があり、この点の解決が望まれていた。

【0004】**【考案が解決しようとする課題】**

本考案は上記の観点に鑑みてなされたものであって、特に複数の変化を楽しむことができるとともに、遊びの領域も拡大され且つ面白みも倍加される形態変化玩具を提案することをその目的とする。

【0005】**【課題を解決するための手段】**

上記課題を解決するための手段として、本考案に係る形態変化玩具は、玩具本体を構成する各部材を組みかえることにより走行体の形態から飛行体の形態に変化可能な変形玩具であって、下記要件を備えることを特徴とする。

- (イ) 玩具本体は飛行体の形態において、機首部と胴体部とが分割可能に形成されていること
- (ロ) 上記機首部を構成する分割部材を組みかえることにより動物の形態に変化すること
- (ハ) 上記胴体部を構成する分割部材を組みかえることによりロボットと武器と

の二つの形態に変化すること

【0006】

【考案の作用、効果】

上記構成のように、本考案に係る形態変化玩具によれば、玩具本体を構成する各部材を組みかえることによって走行体の形態から飛行体の形態に変化させて遊びを楽しむことができる。また、上記玩具本体は飛行体の形態において機首部と胴体部とが分割可能であり且つ該機首部は動物の形態に、胴体部はロボットと武器との二つの形態にそれぞれ変化させて遊びを楽しむことができる。したがって、変形遊びの領域が拡大されるとともに、面白みも倍加される。

【0007】

【実施例】

以下、図面によって本考案の実施態様の一例について説明する。

【0008】

形態変化玩具は玩具本体1を構成する各部材を組みかえることにより、走行体の形態から飛行体の形態に可逆的に変化するようにして形成されている。

【0009】

玩具本体1は飛行体の形態において、機首部2と胴体部3とが分割可能に形成される。すなわち、該機首部2は基部材4と該基部材4の上部に設けられたフード部材5と、該フード部材5の両側に設けられた開閉部材6、6とによって形成されている。そして、該開閉部材6、6の後部に設けた取付部材7、7は上記基部材4の両側に設けた軸受部8、8に軸支されている。これによって、開閉部材6、6は取付部材7、7を支点に左右方向に開閉させることができる。また、上記取付部材7、7の外側には嵌合軸10、10が突出されるとともに、上記開閉部材6、6の後部より下部には車輪11、11が設けられている。さらに、上記フード部材5の後端中央には後述する胴体部3に設けた嵌合凹部に嵌合する嵌合凸部12が形成されている。13、13は上記基部材4の下部に出没自在に設けられた動物の足部材を示す。

【0010】

次に、胴体部3は中央部材14とカバーパート材15、15とロボット部材16、

16とシート部材17と翼部材18、18と人形19とによって形成されている。すなわち、中央部材14の前部には上記嵌合凸部12が嵌合される嵌合凹部20が形成され且つ該嵌合凹部20にはロボット頭部21が出没自在に設けられている。また、上記中央部材14の上部中央と両側上部よりには軸部材22、23、23が突設されている。24は上記中央部材14の後部に支軸25によって開閉自在に軸支された押え部材を示し、該押え部材24の裏面中央には嵌合凹部(図示せず)が形成されている。

【0011】

また、上記中央部材14の両側に設けた軸部材23、23の下方両側には左右に開閉する上記カバーパート材15、15が軸支されるとともに、該カバーパート材15、15の後部寄りには上記ロボットの腕部材16、16が折畳み、展開自在に連結されている。また、上記カバーパート材15、15の前部内側には上記機首部2の基部材4の両側に設けた軸受部8、8が嵌合される嵌合凹部25、25が形成され且つ該嵌合凹部25、25内には上記取付部材7、7の外側に設けた嵌合軸10、10が嵌挿される嵌合孔26、26が形成されている。これによって、胴体部3に取付けられる機首部2を確実に保持することができる。

【0012】

28、28は上記中央部材14の両側後部よりに支軸29、29によって取着された押え片を示し、該押え片28、28は該中央部材14の後部に後述する上記シート部材17を取着したときに、該シート部材17の両側前部に設けた嵌合凸部に嵌合される。これによって、中央部材14の後部に取着されたシート部材17を確実に保持することができる。

【0013】

次に、シート部材17は下部材30と該下部材30の上部に配された上部材31と該上部材31の上部に配された把手部材32とによって形成されている。そして、上記上部材31と下部材30とはその先端部において回動自在に軸支され、また、把手部材32と上記上部材31とはその後部において回動自在に軸支されるとともに、該把手部材32の先部上面には軸部材33が斜め前方に向かって突設されている。上記軸部材33は上記中央部材14の後部に設けた押え部材2

4の裏面中央に形成された嵌合凹部（図示せず）に対応している。さらに、上記下部材30の両側後部よりには後述する翼部材18、18を取着するための取着軸35、35・・・が突設されている。

【0014】

翼部材18、18は基部材37、37の上面後部に設けた水平翼18a、18aと外側面に設けた垂直翼18b、18bと先端に可動状態に軸支された駒部材38、38とから形成されるとともに、上記水平翼18a、18aは支軸39、39を介して折畳み、展開自在に軸支されている。また、上記基部材37、37の内側面には上記取着軸35、35に対応する嵌合孔39、39が形成されている。これによって、シート部材17の両側に翼部材18、18を確実に取付けることができる。

【0015】

次に、人形19は胴体部40の上部に頭部41が固定されるとともに、両側には腕部42が下部には脚部43が設けられ形成されている。そして、腕部42は上腕42aと下腕42bとが可動状態に軸支され且つ該下腕42bには上記中央部材14に設けた軸部材23、23が挿嵌される貫通孔44が形成されている。また、上記脚部43は上腿43aと下腿43bとが可動状態に軸支されている。これによって、人形19の姿勢を自由に変えることができるとともに、玩具本体1への載置が簡単且つ確実に行なえる。

【0016】

形態変化玩具は上述のように構成されているので、その使用にあたっては、まず、図1に示すように玩具本体1が走行体の形態において、中央部材14の両側後部に設けたカバーパート材15、15に取着したロボットの腕部材16、16を該カバーパート材15、15の外側に展開して折畳む。次に、シート部材17の両側に取着されている翼部材18、18の水平翼18a、18aを支軸39、39を支点に90度回動させる。これによって、飛行体の形態に変化させることができる

。

【0017】

次に、上記玩具本体1が飛行体の形態において、中央部材14の両側に設けた

カバー部材15、15を外方向に開くことにより機首部2に対し該カバー部材15、15による保持状態が解除され、図2に示すように上記機首部2は胴体部3を構成する中央部材14から分割離嵌させることができる。また、上記胴体部3は図4に示すように中央部材14の両側に設けた押え片28、28の押え状態を解除することにより、該中央部材14からシート部材17を分割離嵌させることができる。さらに、上記シート部材17から翼部材18、18と人形19とを離嵌させることができる。

【0018】

上記機首部2は基部材4に対し開閉部材6、6を水平方向に90度回動させた後、該開閉部材6、6を取付部材7、7を支点に180度回動させる。そして、上記基部材4の下部から動物の足部材13、13を突出させる。これによって、図3に示すように動物の形態に変化させることができる。

【0019】

また、上記胴体部3は中央部材14の両側に設けたカバー部材15、15の略中央下部にロボットの腕部材16、16を可動させ位置するとともに、押え片28、28を支軸29、29を支点に回動させ拡開させることにより、図5に示すようにロボットの上半部40が形成される。次に、翼部材37、37の先部に設けた駒部材38、38を90度回動させることによりロボットの脚部41、41が形成される。そして、上記ロボットの脚部41、41に人形19の脚部を挿嵌するとともに、該人形19の上部に上記ロボットの上半部40を挿嵌する。これによってロボットの形態に変化させることができる。

【0020】

上記シート部材17は下部材30に対し上部材31を180度展開させるとともに、該上部材31に設けた把手部材32を下方に回動させる。これによって、図8に示すように武器の形態に変化させることができる。

【0021】

武器の形態に変化させたシート部材17と動物の形態に変化させた機首部2とを合体させることにより図9に示すように別の武器に変化させることができる。

【0022】

上述のように形態変化玩具は玩具本体1を構成する各部材を組みかえることにより走行体の形態から飛行体の形態に変化させることができる。また、上記玩具本体1は飛行体の形態において機首部2と胴体部3とが分割可能であり、且つ該機首部2は動物の形態に変化し、胴体部3はロボットの形態と武器の形態とに変化させることができる。したがって、遊びの幅が拡大されるとともに、面白みが倍加される。